

入学者のことば

入学者のことば

歯学科1年 三谷 咲貴



私は新潟大学の歯学部案内を見たとき、「ここだ!!」と直感しました。そして不思議なことに、「大学は地元の近くに」とずっと言い続けていた両親まで、新潟大学に「ビビッときた!」というのです。とはいえ、高知県に住む私達から見れば新潟は、だいぶ遠くにある雪国の県というイメージしかありませんでした。私の生まれ育った高知県では、年に数回雪がちらつく程度、遠くの山の頂にうっすらと雪が積もるのを見かけるだけで、雪を踏みしめて歩くなんで経験は全くありません。そんなわけで、受験直前となると、コートは必要? 靴は雨靴? などといった、南国つ子らしい不安でいっぱいになりました。そして、完全防寒体勢で出発しましたが、新潟に到着すると、意外と暖かいではありませんか! 完全に浮いてしまうところでした。寒さが苦手な私でも案外大丈夫だと、一安心して市内を散策していると、たくさんのおいしい食べ物を発見。また、バスの中での席の譲り合いを度々見かけたり、私が校内で迷っていると声をかけてくれる人達がいたり、



新潟は食べ物もおいしければ、人も温かく、やはり直感通りだと確信しました。

入学して4ヶ月が経とうとしています。単身新潟にのりこみ、同じ出身地の人などももちろんおらず、友達は出来るだろうか、など不安だらけでした。しかし、たった4ヶ月でここまで仲良くなれるのか、と思えるほどの友達もできました。また、中学からやっていた硬式テニス部にも入り、優しく、おもしろい先輩方にも恵まれ、今では充実したキャンパスライフを送っています。勉強面でいえば、まだ一年生にもかかわらず、新潟大学の特徴である早期臨床実習では、白衣を着、実際に病院に出て、患者様と接する機会まで与えてもらっています。一年生の段階で早々に、将来医療人として働くんだ、という自覚をしっかりと持つことができ、勉強に対するモチベーションもあがります。

これから6年間、大変なこともあると思いますが、今のモチベーションのまま、頑張っていきたいと思います。

新潟大学歯学部に入學して

歯学科1年 堀 頌子



新潟大学歯学部に入學して、早いことにもう4ヶ月が経とうとしています。大学に入學するに当たり、私は新潟で生まれ育ち実家通いであるため、県外出身者の人達のように一人暮らしで慣れない生活、というものを経験することにはなりません。県外出身者の人達に、実家通いは楽でいいなあなどと言われると、「そうかなあ。」などと思う反面、私も一人暮らしがしてみたいなあなど思うこともあります。しかし実家通いで助かる点は確かに沢山あると言えるかもしれません。

例えば金曜日の早期臨床実習。この実習において遅刻・欠席は基本的に厳禁です。また体調管理も一人暮らしでは崩れやすいでしょうし、家に帰って食事が用意されているかいないかというのは、相当大きな違いがあるでしょう。この点においては私は恵まれた環境にあると言えるのかもしれませんが。しかしながら、大学生ともなるとさすがに自立した生活が求められます。環境に甘え過ぎず、自分が出来ることは手を抜かずしっかりと行っていこうと思います。

それにしても、大学に入ってから私の生活はだいぶ変わりました。それを最も感じるのは人間関係という点においてです。歯学科・口腔生命福祉学科合わせて60人、という少ない人数ですが、個性豊かな仲間達に出会うことができました。また私は卓球部に所属しているのですが、とても良い先輩方に恵まれ、楽しく週3日の練習に取り組んでいます。もともと私は中学の頃にも卓球部に所属していました。高校は全く関係のない合唱部に、しかしながら卓球の楽しさを忘れられず部活見学に足を運んだのをきっかけに、大学生になり私はまた卓球練習に浸かる日々を送ることになったのです。今は差し迫っているデンタルに向けて尚練習に力を入れている最中です。

このように日々充実した生活を送り、様々な場面を通して沢山の友達と出会うことができました。

これからもここで得た繋がりを大切にし、より良い大学生活を送っていききたいと思います。

入学者の言葉

口腔生命福祉学科1年 岡田明子



4月、新潟出身である私は新しい場所にとまどう、といったことはありませんでしたが、周りの環境が一変し、とまどいと期待が入り混じった新生活が始まりました。しかし3ヶ月間というのはあっという間で、今では仲のいい友達と

毎日楽しく充実した日々を送っています。入学しすぐに歯学部みんなで行く合宿が行われました。初めは緊張して、みんなと打ち解けて楽しむことができるのか不安でしたが、そんな不安はすぐに消え去りました。グループでのディスカッションを通して、似たもの同士だったグループメンバーとすぐに仲良くなることができましたし、ご飯やお風呂、寝るときも新しい友達と一緒に、すごく楽しい2日間を過ごせました。この合宿のおかげで会って間もなかった友達との仲が深まったのではないかと思っています。同じ学科の友達はみんな同じ目標を持っているし、大学の友達は一生ものです。これからもっとお互いを知っていい関係を築いていきたいと思っています。

それから大学生活は高校までとはかなり違っていました。自分で受ける講義は自分で決められ、連絡は全部メールで来るし、何かとわからないことばかりです。でもその反面、自分のやりたいことができるという大学ならではのメリットがあります。やりたい勉強ができたり、将来につながるようなことができるというのは、やる気もでるし楽しいことだと実感しています。それから部活動やサークル活動も大学生活の醍醐味の1つです。私は歯学部のバレー部と全学のほうでテニスサークルに所属していますが、バレーボールは腕の傷のためまだ参加できていません。しかしそれでも先輩方は優しく接してくれます。本当に周りの人に恵まれていると思います。これからの大学生活、いろんなことがあると思いますがいいことが多い気がしています。4年間、精一杯楽しみ、がんばりたいと思います。

入学者のこぼ

口腔生命福祉学科1年 佐藤 茜



筆者は右から2番目

わたしはこの新潟大学の歯学部口腔生命福祉学科を目指そうと思ったのは、高校の先生の勧めが始まりでした。もともと将来は医療系の仕事に就きたいと考えていたので、2つの国家資格を目指すことのでき、歯学のことだけにとらわれていない広い学びをできる学校であることを知りとても魅力的に感じました。

わたしは福島県出身で、東北太平洋沖地震の影響でまだ落ち着いてない状態のときに新潟に住み始めました。まだ頻度の高い割合で余震が続いていたので家族への心配と新しい土地に一人で生活を送ることができるのかという不安でいっぱいでした。

ですが、四月に入学して合宿にいったことによってほとんど不安は解消されました。歯学部の赤塚での合宿では、同じ学部のたくさんの人と話すことができました。みんな同じように県外からきて不安を抱えている子も少なくないということも知ることができずごくほっとしたのを覚えています。またすぐに意気投合できた友達もできて、一気に大学でのこれからの生活が楽しみになりました。

五十嵐キャンパスでの生活は、いろいろな学部の人と交流ができてすごく楽しく過ごしています。歯学部以外の人と交流は、2年生からぐっと減ってしまうと思うので今のうちにたくさんしていきたいです。大学に入って今までとはまた少し違った密度の濃い関係を友人と作ることができ、とまどうこともありましたがお互いを尊重しあえ

る存在となったので本当に良かったと思っています。

また私は、現在ダンスサークルに所属しています。ダンスは、大学に入ってから始めました。友達の付き添いのような形でダンススクールに行ったことがきっかけで今は、どっぷりとはまっています。まだまだうまくはありませんが、いつか人前で堂々と踊れる日を夢見ています。

最初は不安でスタートした新潟大学での生活でしたが、現在は日々充実した大学生活を送ることのできるこの新潟大学にきて本当に良かったと思っています。これから4年間いろいろなことがあると思いますが、友人達と切磋琢磨し生活していきたいです。

大学院に入学して

組織再建口腔外科学分野 齋藤 大輔



今年、新潟大学大学院医歯学総合研究科の組織再建口腔外科学分野へ入学した齋藤です。出身は新潟県ですが、6年間の大学生活は神奈川県で過ごしました。学生時代から口腔外科に興味

があったので、なんとなく口腔外科の大学院への進学を考えていましたが、最終的に大学院への進学を決めたのは昨年の研修医時代でした。学生時代の勉強といえば、国家試験に受かるための知識を詰め込むだけの勉強で、「考える」勉強ではなく、「覚える」勉強がほとんどでした。もちろん知識は必要ですが、臨床ではその知識を応用しなければなりません。昨年の研修医時代にそのことを痛感しました。そこで、テーマを決め、論理的な物の考え方が必要となる研究に魅力を感じるようになり、口腔外科の大学院への進学を決めました。

口腔外科の大学院は、1年目は4ヶ月ごとに外来・病棟・麻酔科をローテーションで回り、臨床の基礎を学びます。2年目からは基礎研究と臨床研究に分かれ、基礎研究の場合は基礎の教室で動物や細胞を対象に3年間研究に専念します。一方、

臨床研究の場合は臨床を続けながら、患者様を対象とした研究をしていきます。私は研究にも興味はありましたが、それ以上に臨床にも興味があったので、両方経験を積める臨床研究をすることにしました。

現在は1年目の外来クールなので、外来で指導医の先生方の診療の見学やアシストをして手技を学び、新患担当されたときには、実際に診察・処置・小手術などを行っています。毎日たくさんの良い汗や嫌な汗をかきながら臨床経験を積み、充実した大学院生活を送っています。毎日指導医に助けられてばかりですが、それでも患者様が痛みや不安から解放されたときに、「先生、ありがとうございました。」という声を聴くと、やりがいのある仕事だと感じます。

来年からは今の生活にさらに研究が加わるので、より忙しい毎日になりますが、臨床と研究を共に頑張っていきたいと思っています。

大学院に入学して

口腔生命福祉学専攻 手嶋 謡子
前期博士課程1年

今年の4月に口腔生命福祉学専攻博士前期課程に入学し、4ヶ月が経とうとしています。現在、私は、社会人大学院生として、新潟大学医歯学総合病院に勤務しながら、学んでいます。同期は、私を含めて4人ですが、それぞれ仕事を持っています。中には県外から通われている方もおり、4人が揃って講義を受けることは少ないですが、経験豊かな先輩歯科衛生士ばかりなので、今後、色々教えて頂けたらと思っています。

私は、これまで、新潟大学では保健・医療・福祉のそれぞれの分野を取り巻く、制度や環境、連携などについて講義や実習を通して学んできました。しかし、今の自分には医療や福祉を必要とする人への関わりや働きかけをする為の専門的知識や技術は、十分、備わっていないと感じ、大学院へ進むことを決めました。

4月から新潟大学医歯学総合病院で働き始め、仕事と大学院の両立は、決して楽ではありません。しかし、様々な分野についての知識や考え方を知

る楽しみ、課題を自分なりに解決する喜びもあり、大学院で学ぶということは、仕事のレベルアップや自己実現を図ることに繋がると考えています。今はまだ、社会人大学院生として始まったばかりです。まずは、今の自分にできることを精一杯こなし、基礎を固めていきたいと思っています。将来は医療や福祉の専門家として、一人前になることを目標とし、人間的に幅広い視野を持てるような勉強や体験を重ね、自分がやりたいこと、なりたい自分をしっかり意識しながら、毎日を過ごして行きたいと思っています。

最後に、4月から知識も技術も未熟な私を温かく迎え、指導して下さい、衛生士の皆さまを始め、先生方には深く感謝しています。今後も頑張りますので、宜しくお願い致します。

大学院に入学して

口腔生命福祉学専攻 當 摩 紗 衣
博士後期課程

大学院口腔生命福祉学専攻の當摩紗衣と申します。現在は社会人大学院生として博士後期課程に在籍し、主に小児・障害者歯科の分野を学んでいます。

私は生まれも育ちも北海道、いわゆる「道産子」です。新潟へ来て7年目、まさかこんなに長くなることになるとは思ってもみませんでした。あのキンと冷えた、背筋の伸びるような厳しい寒さがどこか懐かしく、慣れない蒸し暑さにまだまだ苦労しています。

口腔生命福祉学科の2期生として入学し、卒業後は大学院へ進学して今年の3月に修士課程（今は博士前期課程というのですが）を修了しました。修士課程では、富沢美恵子先生をはじめ小児歯科の大島邦子先生、田口洋先生の元で小児歯科・障害者歯科の面白さを教えていただきました。また、臨床では歯科総合診療部の中島貴子先生にご指導いただき、歯科衛生士として患者様と関わることができました。右も左もわからない私に、とても優しく接して下さった先生方には、本当に感謝しております。

後期課程でもまだまだ学びたいことがあるので

すが、なかなか上手くいかない現状と自分の至らなさに少々もどかしさも感じています。

私が小児・障害者歯科の分野を学ぶことにしたのは、口腔保健学はもちろん、「せっかく社会福祉の勉強もしたんだから、それを生かさないのはもったいない」と思ったからです。『歯科』と『福祉』のどちらかに偏るのでは意味がない。両方の切り口からその人にとって必要な支援を考えること。それが私の研究テーマです。

……と、少々偉そうに書いてしまいましたが、正直、富沢先生のお人柄に惹かれたというのが一番の理由です。先生のもとで学んだあの1年半を、私は絶対に忘れません。

— 昨年の夏、児童相談所へ行った帰りに、先生は大学近くの和菓子屋さんで水羊羹を買ってくださいました。あの水羊羹と、赤ペンで書かれた先生の字を見るたびに、「もう少し、ここで頑張ってみようかな」と思うのです。

